

5月30日から6月1日まで、東京ビッグサイト(東京都江東区)においてスマートグリッド展、バイオマスエキスポ2012等が開催されました。

30日には、スマートビレッジの実現要素となるポイントや、再生可能エネルギーの活用による地域ビジネスの活性化を通して、新しい日本のあり方を示すことを目的として、再生可能エネルギー活用による

地域活性化フォーラムが開催されました。

フォーラム前段の講演では、佐々木経世氏(イースリョーションズ代表取締役社長)／



再生可能エネルギー活用による

地域活性化フォーラム

スマートシティ企画代表取締役社長、山崎養世氏(太陽経済の会代表理事／成長戦略総合研究所代表取締役社長)に続き、末松林野庁林政部長が、「再生可能エネルギーを活用した地域ビジネスの進展について」と題し講演を行いました。末松林政部長は、「日本はかつて森林が豊かではなかったが、植樹を進めてきたことで、量が多いという意味で森林が豊かになってきた。一方で質がいいかというところに課題がある。林業採算性の低下により森林所有者の投資が進まないことに要因があるが、これを進めるためには林業の生産性を向上させて、木材とりわけ林地残材等の未利用木材を活用することが重要である。現

在、再生可能エネルギー固定価格買取制度が検討されており、その一つとして未利用木材の木質バイオマスへの活用がある。既存の発電を代替するには限界があるが、木質バイオマスは化石燃料と違い、燃料は発電所の所在する地域から供給されることから、地域にお金が落ち、また雇用も創出される。地域にお金が落ちることにより、森林整備も進み健康な森林を増やせる。しかも、木質バイオマス発電での地域における経済効果、雇用効果は純粋にプラスになる。」など、木質バイオマスの現状と将来性について講演されました。

続いて、小見山将昭氏(創造再生研究所代表理事)をコーディネー

ターとし、講演を行った3名をパネラーとしてパネルディスカッションが行われ、様々な再生可能エネルギーについて、事例を交えながら紹介されました。パネルディスカッションでは、「これからは地域の資源、技術をどう組み合わせるべきか、プロジェクトに仕立てていくか」、「ブームになって取り上げられるようになるのはとてもいいことだが、ブームになると玉石混交の提案が出てくる」などの課題が提示され、いろいろな提案をよく聞き、先進事例を見て、ビジネスは自己責任という面もあるので、よく考えて取り組んでほしいと締めくくられました。

